

令和5年度 愛媛県立野村高等学校 第75回卒業式式辞

菜の花、水仙、そして紅白の梅の花。道端の花々の柔らかなたたずまいに春の訪れを感じる今日の佳き日に、愛媛県議会議員兵頭竜様、卒業後50年を迎えられました同窓生の皆様をはじめ御来賓の方々の御臨席を賜り、愛媛県立野村高等学校第七十五回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりまして、大きな喜びでございます。本日御臨席を賜りました皆様方には、巣立ちゆく卒業生の門出に花を添えていただき、誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました五十六名の皆さん、卒業おめでとうございます。心から拍手を送り、お祝いを申し上げます。また、疾風怒濤の青春を全力で駆け抜けているお子様に、無償の愛を注ぎ、支え、励ましながら、この日を待ち望んで来られました保護者の皆様にも、衷心よりお喜びを申し上げます。

卒業生の皆さん。私は皆さんとは二年間のお付き合いでしたが、皆さんが何事に対しても全力で取り組み、ひとつひとつ自分たちの手で創り上げ、学校を盛り上げていこうとする姿をこの目でずっと見てきました。皆さんの周りには、いつもそれを支え、一緒になって情熱を注いでくれるかけがえのない仲間がいました。皆さんはそんな仲間と、学び合い、高め合い、支え合いながら、一段と大きく成長してくれました。私は母校である野村高校に校長として赴任し、皆さんに出会えたことをとてもうれしく思っています。

ところで、私は以前勤めていた学校で、Aさんという生徒に出会いました。Aさんは、勉強も部活も頑張っていました。2年生の時に些細なこと从不登校になりました。友だちのサポートもあり、3年になって徐々に登校し始めたAさんでしたが、ある日、進路担当だった私のところに来てこう言ったのです。「私には将来医者になって患者さんの命を守りたいという夢があります。学校を休んでばかりの私ですが、医者になれるでしょうか。」私はAさんの突然の言葉に少し驚きましたが、彼女にこう言いました。「不登校になって、とても辛かったです。でもそんなAさんだからこそ、人の痛みや苦しみを理解してあげることができるはず。ぜひ医者になって苦しんでいる人たちの力になってあげてください。」その後、Aさんは一生懸命に勉強を続け、ついには医学部に合格したのです。そして今は思春期外来専門の心療内科医として活躍しています。私は、Aさんから「人は誰でも弱さを持っている。でもその弱さがあるからこそ、それを強み変えることで人の役に立つことができるのだ。」ということを学ばせてもらいました。

皆さんが生きていく21世紀は、以前に比べてより多様な生き方を選べる時代になったと思います。今後、皆さんはどんな道を選び、どのように生きていくのでしょうか。今年の七月から新一万円札にデザインされる渋沢栄一は、富岡製糸場を始め、約五百の企業の設立・育成に関わり、日本近代経済の礎を築いた人です。その彼の言葉に、「人の表情や行動を見て、人が何に満足や喜びを感じるのかを知る」というものがあります。一般的には「他人をよく観察して、その人のことを知れ」という教えなのでしょう。しかし、私はこの言葉に出てくる「人」とは、他人のみではなく自分自身も含まれるのではないかと考えています。この言葉には「自分自身の表情や行動から、自分が何に満足や喜びを感じるのかを知り、自分の道を見つけなさい」という渋沢の強いメッセージが込められていると私は考えています。

そして、私は、これからそれぞれの新しい世界に旅立っていく皆さんに、次の言葉を伝えたいと思っています。それは、「自分のいきがいを見つけ、それに向かって努力してほしい」

ということです。これは、先程の渋沢の言葉を借りれば「自分の道を見つける」ということになるでしょう。不登校だったAさんが自分の弱みを強みに変えて心療内科医になったように、皆さんには自分の強みも弱みも全て受け入れ、自分自身の「いきがい」を見つけてほしいのです。仕事、趣味、家族。「いきがい」の対象は無限だと思います。「いきがい」のある人は笑顔にあふれていて、その笑顔は自分だけでなく周りの人も幸せにできると私は確信しています。ゆっくりでいい、堂々と自信を持って自分の道を歩んでください。

いよいよお別れのときがやってきました。校舎壁面の「美しく 新しく 逞しく」の校訓は、この三年間、皆さんのことをずっと見守ってくれました。今日はよく頑張ったとほめてくれていると思います。三年間、本当にお疲れさまでした。名残は尽きませんが、卒業生の皆さんのこれからの幸せとご活躍を心からお祈りし、式辞といたします。

令和6年3月1日

愛媛県立野村高等学校長 山下 和宏